

2026 年 12 月期第 1 四半期決算説明会（アナリストミーティング）主な質疑応答

日時：2026 年 8 月 7 日（金）18 時 30 分～19 時 25 分

形態：Web 会議

当社登壇者：代表取締役社長（CEO） 嶋本 和訓

取締役上席執行役員（CFO） 鈴木 健二

I R 部長 市川 俊

【通期業績予想・打ち手について】

Q. 今回の業績予想修正の背景、P12 にある「実現リスク」について教えてください。

A. 国内食品事業では、一部カテゴリーにおける販売数量の減少や経費の増加、業務用チキン加工品のライン増設に伴う一時的な稼働停止などの影響がありましたが、いずれも概ね想定範囲内で推移しました。一方で、中東情勢の変化に加え、海外ではタイ事業における副産物市況の下落や為替影響、中国向け輸出環境の変化など、想定外の要因が発生しました。

こうした環境変化に対しては、価格改定やプロモーション強化などの施策を通じて挽回を図っていきます。しかしながら、今年度は変則決算で施策効果を取り込む期間が限られていることに加え、足元の消費環境にも不透明感が残ることから、施策が想定どおり成果につながらない可能性を「実現リスク」として織り込み、営業利益予想を下方修正しました。

Q. 国内食品事業の販売数量について、競争環境の変化や競争優位性の低下を懸念する必要はありますか。

A. 足元では消費者の節約志向の高まりなどを背景に数量成長は一時的に足踏みしていますが、当社では競争力そのものが低下しているとは認識していません。引き続き、価格帯や容量など消費者ニーズに合わせた商品提案を進めるとともに、きめ細かな価格戦略を展

開していきます。また、今秋には約 90 品の新商品・リニューアル商品を投入予定です。なかでも「本格炒めチャーハン」や「特から」という各カテゴリーNo.1 を掛け合わせたワンプレート商品などは積極的なプロモーション施策も行い、引き続き市場での優位性を確保していきます。

Q. タイ事業の業績回復に向けた取り組みについて教えてください。

A. タイ事業では、副産物市況の下落や輸出事業における為替相場（ドル安パーツ高）などが収益に影響しました。前者に対しては収益改善に向けた施策を進めており、具体的には、副産物を活用したペットフード原料や加工食品原料への展開、利益率の高い販路の開拓など、付加価値向上に取り組んでいます。また為替環境も改善傾向にあり、これまでの減益要因は徐々に縮小していくと見ています。

【中期経営計画最終年度について】

Q. 中期経営計画最終年度の目標達成に向けた考え方を教えてください。

A. 現時点では、中期経営計画最終年度の目標の変更は考えておらず、達成に向けて各施策を着実に実行していきます。食品事業では、米をはじめとする原材料コストの改善に加え、価格改定の浸透、主力商品の販売強化、新商品の投入などを通じて勝ちパターンを取り戻していきます。また、低温物流事業については、国内事業が堅調に推移しているほか、海外事業においても足元では一部地域で課題があるものの、集荷拡大やサービス領域の拡充を通じて成長を加速させ、中期経営計画の達成を目指していきます。

【システム障害について】

Q. 今回のシステム障害で、お客様に対してレピュテーションリスクが発生していないか、中長期的な影響はありますか。

A. 今回のシステム障害につきましては、経営として極めて重く受け止めています。一方で、食のインフラを支える企業として、お客様へのサービス提供再開を最優先に対応してまいりました。約 10 日間にわたりお客様には多大なご迷惑をおかけしましたが、当社は質の高い物流サービスと輸配送や流通加工までを含めた一貫物流サービスを提供してお

り、こうした価値を通じてお客様の事業運営に貢献しています。今後は再発防止策やセキュリティ対策の強化に取り組むことで、お客様からの信頼回復・向上に努めていきます。

【5つの経営論点について】

Q. 5つの重要論点の検討進捗で、選択と集中という考え方が必要という説明がありました。具体的にどういった課題認識を持っているのか、少し示唆ください。

A. 現在 P16 でお示しした4つそれぞれの象限を軸に、戦略や事業ポートフォリオの中身に関する議論を重ねており、第2四半期の決算発表以降に開示したいと思います。今後、資本市場の皆様にもヒアリングさせていただきながら練り上げていきたいと考えています。

以上

※当文書は当日の質疑応答内容をすべて記録したものではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。